

令和7年度

学生生活実態調査報告書

奈良教育大学学生委員会

目 次

調査の概要	1
-------	---

【学部】

A. 基本事項	3
B. 将来希望する進路について	4
C. あなたの健康について	6
D. 現在の悩みについて	8
E. ハラスメント、人権問題等について	11
F. 課外活動（サークル活動等）と学内における生活の状況について	17
G. ボランティア活動について	23
H. 図書館の利用について	26
I. 情報館の利用について	29
J. 教育資料館について	31
K. 経済状況について	33

【大学院】

A. 基本事項	38
B. 将来希望する進路について	39
C. あなたの健康について	41
D. 現在の悩みについて	43
E. ハラスメント、人権問題等について	46
F. 課外活動（サークル活動等）と学内における生活の状況について	52
G. ボランティア活動について	58
H. 図書館の利用について	61
I. 情報館の利用について	64
J. 教育資料館について	66
K. 経済状況について	68

調査の概要

1. 調査の目的

本学では、学生の立場に立ってサポートする学習・生活支援システムを整備する努力をしています。そのため、定期的に学生生活実態調査を実施し、学生の生活や学業などについての現状を知ること、施設や制度、教職員による支援活動の状況を検討し、学生支援の改善を図っています。

2. 調査の組織

学生委員会が関係委員会等との連携により、実施方法及び調査事項を検討し、学生委員会の議を経て実施しました。

3. 調査の方法

この調査は、本学の学部、大学院に在籍する学生を対象として、パソコンやスマートフォン等からWeb上で回答する方法により実施しました。

4. 調査期間

令和7年10月22日～令和7年11月30日

5. 調査結果の概要

多様な観点から学生生活の実態を把握する目的で、12領域にわたって質問を行いました。結果分析においては本学の学生委員会、人権・ハラスメント防止委員会、就職支援室、図書館運営委員会、情報センター運営委員会、保健センターの協力のもとに検討を行いました。

区分		学生数 (人)	回答者数 (人)	回答率 (%)
学部	計	1,106	101	9.1
大学院・ 教職大学院	計	120	11	9.2
合計	計	1,226	112	9.1

入学年度別

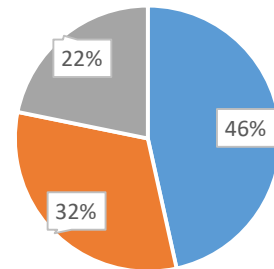
区分	学生数 (人)	回答者数 (人)					計	回答率 (%)
		令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度 以前		
学部	1,106	30	22	28	20	1	101	9.1
大学院・ 教職大学院	120	7	3	1	0	0	11	9.2
計	1,226	37	25	29	20	1	112	9.1

(学 部)

令和7年度学生生活実態調査集計結果(学部)

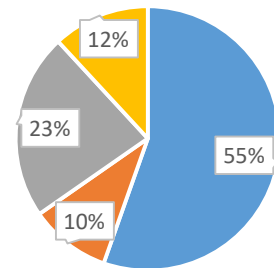
03 あなたの住居

自宅(家族と同居)	47
自宅外(学生寮を除く)	32
学生寮	22
計	101



04 通学に要する時間(片道)

30分未満	56
30分~1時間未満	10
1時間~2時間未満	23
2時間以上	12
計	101



カテゴリ名：

「B. 将来希望する進路について」

調査項目：

05 将来希望する進路について、お答えください

06 大学が実施する就職支援について、意見・要望等を自由に入力してください

1. 全体の傾向

学部生全体に占める教員就職希望者の割合は 68%である。過去のデータを見ると、学部生全体の教員就職希望者の割合は、68 %（6 年前）→ 64 %（4 年前）→ 68 %（2 年前）→ 68 %と同程度で推移している。近年の本学における教員就職率と本調査における教員就職希望者の割合を考えると、教員就職率を上げるためには「教員就職希望者を入学させる」及び「入学後に進路変更する者を少なくする」の 2 つの対策が必要である。

また、就職支援に関しては多数の意見が集まった。教員就職の支援に対しては「支援が手厚い」という回答が多数見受けられた。その一方で、「奈良県以外の教採支援を充実させてほしい」「全員参加の面談を 2 回生も対象としてほしい」といった就職支援プログラムのさらなる充実を希望する意見もあった。

教員就職以外については「企業就職希望者向けの支援を手厚くしてほしい」という意見が複数見受けられた。

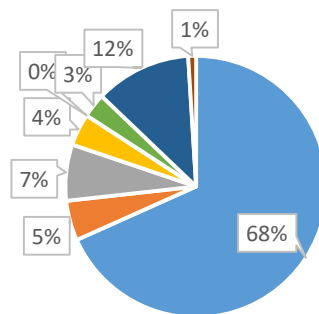
その他にも「同じような内容のメールが何度も来る」「進路の相談ができることを知られていない」といった、学生への周知方法に関する意見があった。

2. 特筆すべき事項

自由記述で出た意見はおおむね、過去のアンケートでも見られた意見が多かった。前回調査と同様に、オンデマンド対応に関する要望があった。

05 将来希望する進路について、お答えください

教員（保育士含む）	69
公務員（教員を除く）	5
民間企業	7
民間の教育施設や福祉施設	4
自由業・家業を継ぐ	0
大学院へ進学	3
未定	12
その他	1
計	101



カテゴリ名：

「C. あなたの健康について」

調査項目：

- 07 あなたは、健康だと思いますか
- 08 あなたは、喫煙の経験がありますか
- 09 あなたは、お酒を飲みますか
- 10 普段から健康に心掛けていますか
- 11 カウンセリングの利用方法を知っていますか

1. 全体の傾向

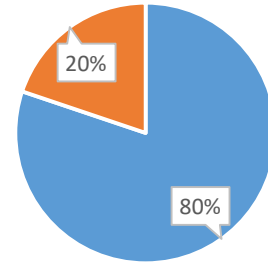
身体面では、75%の学生が「健康に心掛けている」と回答しており、学生の健康意識は比較的高い傾向にあった。また、喫煙や過度な飲酒など健康に害を及ぼす習慣を持つ学生はごく少数であった。一方で、自分を「不健康」と感じている学生が2割存在したことは注目すべき点である。さらに、カウンセリングの利用方法を知らない学生が約3分の2に上り、メンタルヘルス支援への認知不足が明らかになった。

2. 特筆すべき事項

健康に気を配っている学生が多いにもかかわらず、一定数の学生が「不健康」と自己評価しているという実態から、睡眠・食生活・精神面など、身体的健康感に影響する具体的要因を明確にする必要がある。また、カウンセリングの利用方法を認識していない学生が過半数を占めたことは、大学および保健センターの支援体制が十分に学生へ周知されていないことを示唆する。今後は、カウンセリングの利用方法を「誰にでも分かる形」で明確に示し、効果的なメンタルヘルス支援実現のための取り組みを推進する必要がある。

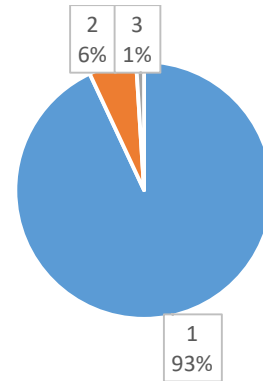
07 あなたは、健康だと思いますか

健康だと思う	81
不健康だと思う	20
計	101



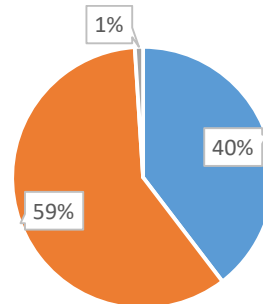
08 あなたは、喫煙の経験がありますか

喫煙の経験はない	94
喫煙の経験はあるが、現在は喫煙していない	6
現在、喫煙している	1
計	101



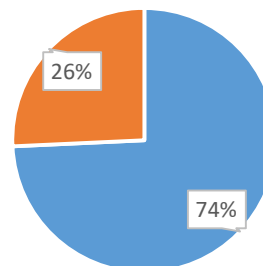
09 あなたは、お酒を飲みますか

全く飲まない	40
時々飲む	60
ほぼ毎日飲む	1
計	101



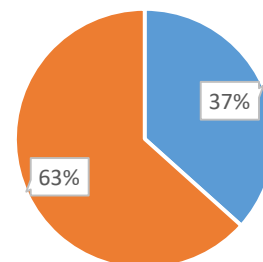
10 普段から健康に心掛けていますか

健康に心掛けている	75
健康に心掛けていない	26
計	101



11 カウンセリングの利用方法を知っていますか

はい	37
いいえ	64
計	101



カテゴリ名：

「D. 現在の悩みについて」

調査項目：

- 12 現在、悩んでいる問題がありますか
- 13 悩んでいる問題は何ですか【複数選択可】
- 14 悩みの相談相手は【複数選択可】
- 15 本学が実施しているオフィスアワー制度について

1. 全体の傾向

「現在、悩んでいる問題」について、回答した学部学生（101名）の約4割が「ある」としており、「将来、進路（就職・進学）」（21%）、「自分の性格・能力」（14%）、「自分の健康について」（13%）が上位の3つであった。「悩みの相談相手」は、「友人・先輩・後輩」（39%）、「家族・親戚」（32%）の2つが突出していた。

「オフィスアワー制度」については、回答の約5割が「制度の内容は知っているが、利用したことはない」であった。「制度を知らない」という回答が約4.5割で、「利用したことがある」という回答は1割足らずにとどまった。

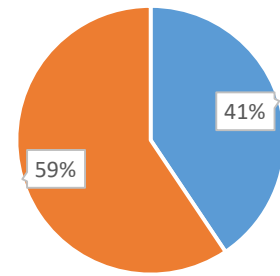
2. 特筆すべき事項

「自分の健康について」悩んでいる学生が増加傾向（17名、13%）にあり、心身に不調を来す学生が増えていることについて、よく留意しておくべき点であろう。「ハラスメントについて」悩んでいる学生がいることや、「悩みの相談相手」が「いない」と回答した学生が5名（7%）いることなども踏まえると、学生相談窓口や相談方法などの周知が必要であろう。

また、「オフィスアワー制度」について、「利用したことがある」という回答が1割足らず、「制度の内容は知っているが、利用したことはない」という回答が約5割という結果を踏まえると、周知ばかりでなく、制度自体のニーズや、より効果的な運用方法などについても検討していく必要があるであろう。

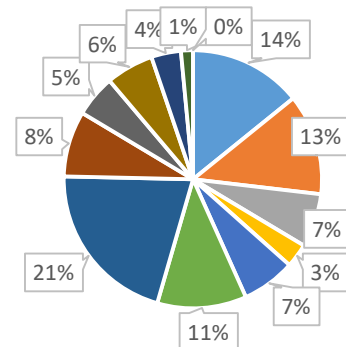
12 現在、悩んでいる問題がありますか

ある	41
ない	60
計	101



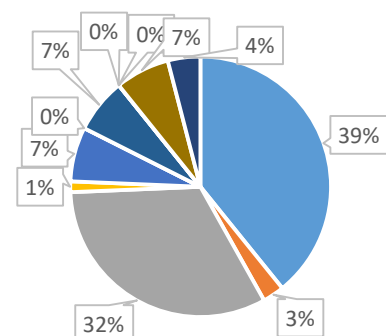
13 悩んでいる問題は何ですか【複数選択可】

自分の性格・能力について	19
自分の健康について	17
友達に関すること	9
本学の教職員に関すること	4
家族について	9
経済的なことについて	15
将来、進路（就職・進学）について	28
学業について	11
課外活動（クラブ活動・ボランティア活動等）について	7
アルバイトについて	8
恋愛について	5
ハラスメントについて	2
その他	0
計	134



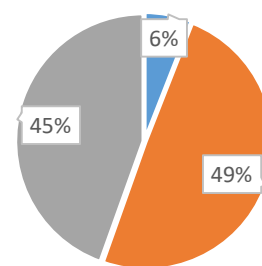
14 悩みの相談相手は【複数選択可】

友人・先輩・後輩	29
恋人・配偶者	2
家族・親戚	24
出身学校の恩師	1
本学の教員	5
本学の事務職員	0
本学の学生相談員・カウンセラー	5
本学のハラスメント相談員	0
学外のカウンセラー	0
いない	5
その他	3
計	74



15 本学が実施しているオフィスアワー制度について

利用したことがある	6
制度の内容は知っているが、利用したことはない	50
制度を知らない	45
計	101



カテゴリ名：

「E. ハラスメント、人権問題等について」

調査項目：

- 16 奈良教育大学ダイバーシティ・インクルージョン推進宣言について
- 17 本学が設置するハラスメント相談窓口（ハラスメント相談員）について
- 18 現在又は過去に学内でハラスメントを受けたことはありますか。
- 19 受けたことがあるハラスメントを選択してください【複数選択可】
- 20 ハラスメントを受けた相手は誰ですか【複数選択可】
- 21 ハラスメントを受けた時、そのことを誰かに相談しましたか【複数選択可】
- 22 ハラスメントに対する対応策を講じましたか【複数選択可】
- 23 ハラスメントを受けたことにより、あなた自身にどのような不利益や影響がありましたか【複数選択可】
- 24 現在又は過去に学内でハラスメントの相談を受けた、又は見聞きしたことがありますか。ある場合は、相談を受けた又は見聞きしたハラスメントを選択してください【複数選択可】
- 25 本学において、個人の人権に関わって、「差別的な取り扱いである」、「改善すべきである」といった課題には何があると思いますか【複数選択可】
- 26 上記回答について、具体的な内容を入力してください
- 27 ハラスメント、人権問題等に関して、大学への意見・要望等を自由に入力してください

1. 全体の傾向

奈良教育大学ダイバーシティ・インクルージョン推進宣言を聞いたことがない学部生は42%（前回45%）、内容を理解している学部生は11%（前回12%）であった。令和3年4月の宣言制定後、新入生に対してオリエンテーションで説明しているため、今回の調査対象者は入学時に説明を受けた者がほとんどとなったが、前回調査時と大きな変化はなく、さらなる周知が必要である。

ハラスメント相談窓口を知らない学部生が66%（前回60%）おり、こちらもさらなる周知が必要である。「ハラスメントを受けたことがない」と回答した学部生は94%（前回91%）であり、「学内で何らかのハラスメントの相談を受けたり、見聞きしたりしたことがある」と回答した学部生は38%（前回25%）であった。ハラスメントを受けた相手は「教員」が最も多く、7割近くを占める結果となった。ハラスメントへの対応策として「拒否や抗議をした」と比較的積極的に対処した者は23%（前回9%）、「無視した」「冗談ですませようとした」「考えないようにした」「相手を避けようとした」といった対処をした者は77%（前回91%）であった。「誰かに相談した」と回答した場合の相談相手は「友人・先輩」（40%）、「教員」（30%）、「家族」（20%）という順であり、「本学のハラスメント相談員」は0%

であった。ハラスメント相談員の認知度が低いことが影響している可能性は否定できない。また、ハラスメントを受けた者のうち「特に影響はなかった」と回答した学部生は7%であり、多くの場合不利益や影響を受けていることが確認された。

差別的・改善すべきと感じている事柄について、「教員・事務職員の発言・態度に関わる問題」、「学生同士の発言・態度に関わる問題」、「インターネット上での問題」、「バリアフリーなど、大学の設備に関わる問題」が上位を占めた。前回調査で上位だった「性差に関わる問題」は上位から外れたが、上位を占める項目に変化は少ない。

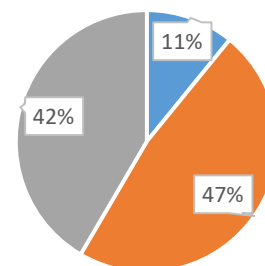
なお、令和5年度に実施された前回調査と比べて、回答数が半分以下となっているため、単純に前回との比較はしづらい状況であることを申し添える。

2. 特筆すべき事項

「学内で何らかのハラスメントの相談を受けたり、見聞きしたりしたことがある」と回答した学部生の割合は増加しているが、相談相手として「教員」が増えたことは特筆すべきである。コロナ禍で教員との関係が希薄であった前回調査時よりも、教員と対面で接する機会が増え、気軽に相談しやすい状況が戻ってきている可能性が推察される。

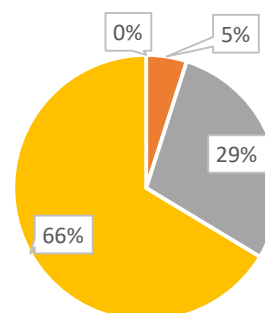
16 奈良教育大学ダイバーシティ・インクルージョン宣言について

知っているし、内容を理解している	11
聞いたことはあるが、内容は理解していない	48
聞いたことがない	42
計	101



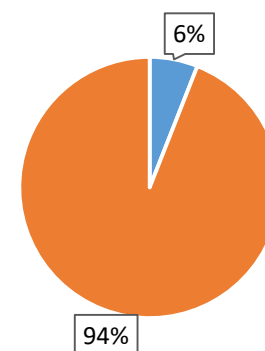
17 本学が設置するハラスメント相談窓口(ハラスメント相談員)について

知っているし、利用したこともある	0
知っているが、利用しづらい	5
知っているが、利用する必要がある	29
知らない	67
計	101



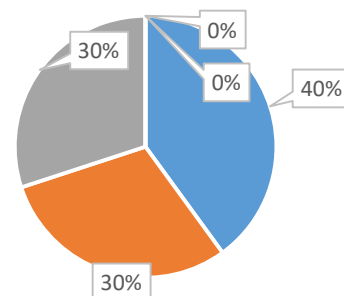
18 現在又は過去にハラスメントを受けたことはありますか。

ある	6
ない	95
計	101



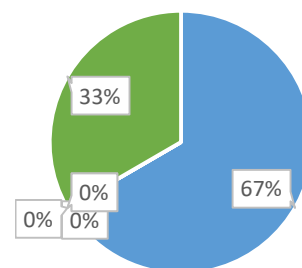
19 受けたことがあるハラスメントを選択してください【複数選択可】

セクシャル・ハラスメント（不快に感じる性的な言動等）	4
パワー・ハラスメント（上下関係を利用した嫌がらせ等）	3
アカデミック・ハラスメント（教育・研究指導における嫌がらせ）	3
アルコール・ハラスメント（飲酒の強要）	0
その他（SNSを含む）執拗ないやがらせ	0
計	10



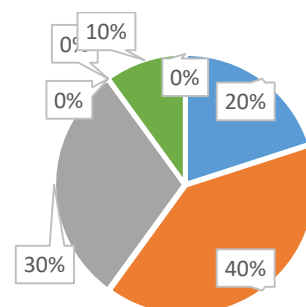
20 ハラスメントを受けた相手は誰ですか【複数選択可】

教員	4
事務職員	0
所属する研究室の学生	0
所属するサークルの学生	0
所属する研究室・サークル以外の学生	0
その他	2
計	6



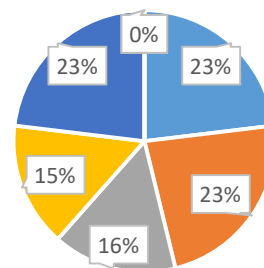
21 ハラスメントを受けた時、そのことを誰かに相談しましたか【複数選択可】

家族	2
友人・先輩	4
教員	3
事務職員	0
本学のハラスメント相談員	0
誰にも相談していない	1
その他	0
計	10



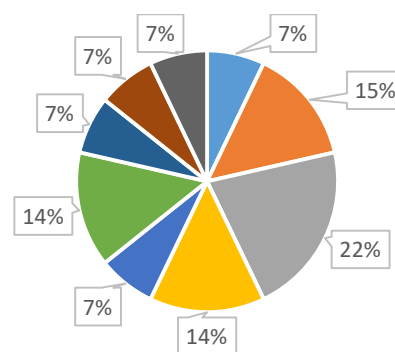
22 ハラスメント に対する対応策を講じましたか【 複数選択可】

拒否や抗議をした	3
無視した	3
冗談ですませようとした	2
考えないようにした	2
相手を避けようとした	3
特に何もしなかった	0
その他	0
計	13



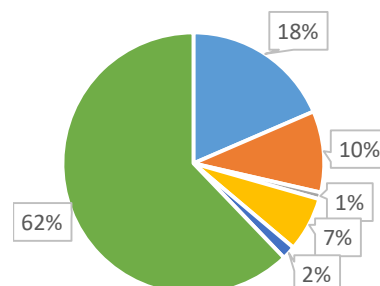
23 ハラスメント を受けたことにより、あなた自身にどのような不利益や影響がありましたか【 複数選択可】

進路の決定や成績の判定で不利な扱いを受けた	1
サークルや研究室で仲間はずれ等をされ人間関係が悪くなった	2
相手との接触を避けたことにより、活動・行動範囲が制限された	3
大学へ行くのが嫌になった	2
勉強（研究）する気がなくなった	1
憂鬱感、不安感など精神的に不安定になった	2
不眠や食欲不振など体調を崩した	1
特に影響はなかった	1
その他	1
計	14



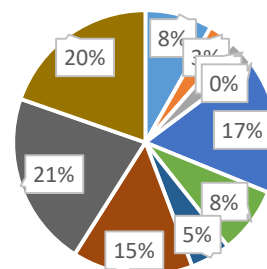
24 現在又は過去に学内でハラスメントの相談を受けた、又は見聞きしたことがありますか。ある場合は、相談を受けた又は見聞きしたハラスメントを選択してください【複数選択可】

セクシャル・ハラスメント	22
パワー・ハラスメント	12
アカデミック・ハラスメント	1
アルコール・ハラスメント	8
その他（SNSを含む）執拗ないやがらせ	2
相談を受けたことがない又は見聞きしたことがない	74
計	119



25 本学において、個人の人権に関わって、「差別的な取り扱いである」、「改善すべきである」といった課題には何があると思いますか【複数選択可】

性差に関わる問題	5
留学生に関わる問題	2
障害者に関わる問題	2
部落差別に関わる問題	0
インターネット上での問題	10
プライバシーに関わる問題	5
ハラスメントに関わる問題	3
バリアフリーなど、大学の設備に関わる問題	9
教員・事務職員の発言・態度に関わる問題	13
学生同士の発言・態度に関わる問題	12
計	61



カテゴリ名：

「F. 課外活動（サークル活動等）と学内における生活の状況について」

調査項目：

- 28 現在、学内外のサークル等へ加入していますか
- 29 加入しているサークル等を選択してください。【複数選択可】
- 30 サークルに入った目的は何ですか【複数選択可】
- 31 加入していない理由は何ですか【複数選択可】
- 32 大学祭「輝薨祭」に参加したことがありますか
- 33 次の項目について、あなたの満足度を選択してください。
- 34 学生生活についての意見・要望等を自由に入力してください。

1. 全体の傾向

アンケートに返答した学部生の約 6 割が学内のサークルに加入し、その半分が体育会系サークルへの加入している。サークルへの参加動機としては、「高校からやっているから」（29 名、25%）、「友達が欲しかったから」（22 名、19%）、「知識・技術を身に付けたかったから」（13 名、11%）が上位の 3 つであった。一方、サークルに加入していない学生の理由としては、「入りたいサークルが無い」（17 名、28%）、「他にやりたいことがあるため」（14 名、23%）、「通学に時間がかかるため」（8 名 13%）が上位の 3 つであった。

大学祭への参加については、「企画・イベント等の一員として参加した」（46 名、45%）、「役員として参加した」という回答を合わせると半数近くとなった。一方、参加しなかった学生は、8%であった。

満足度の調査では、「大学における生活全般」や「事務窓口の対応」、「進路・就職の支援体制」の設問で、「大いに満足」・「やや満足」が半数以上を占める結果になっており、施設に関しては、教室設備やコンピューター施設の満足度は高かった。一方、課外活動施設・福利厚生施設・駐輪場等の満足度は、それと比較して低い傾向がみられた。

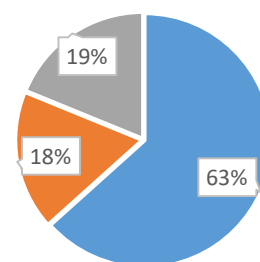
2. 特筆すべき事項

大学祭への参加について、「在学中に、まだ開催されていない」という回答を除いて比較すると、約 9 割の学生が何らかの形で参加している点が印象的であった。

自由記述では、課外活動施設（特に体育館、舞踊場）への空調設置の要望が多く、次いで全学的な Wifi 設備の充実の要望が多数みられた。他には、食堂の充実してほしいとの要望が見受けられた。

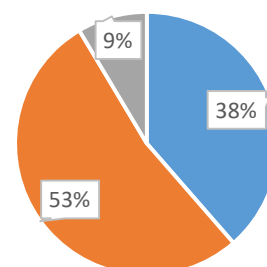
28 現在、学内外のサークル等へ加入していますか

加入している	64
以前は加入していたが、現在は加入していない	18
全く加入したことがない	19
計	101



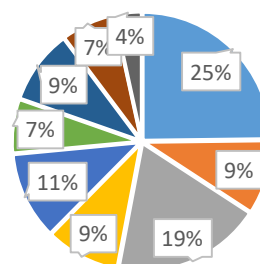
29 加入しているサークル等を選択してください。【複数選択可】

文化系サークル	27
体育系サークル	37
その他のサークル・ボランティアグループ	6
計	70



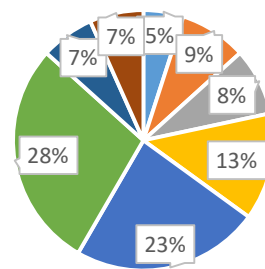
30 サークルに入った目的は何ですか【複数選択可】

高校からやっているから	29
団体活動がしたかったから	11
友達が欲しかったから	22
身体を鍛えたいと思ったから	11
知識・技術を身に付けたかったから	13
就職に役立つと思ったから	8
余暇利用のため	11
先輩に勧誘されたから	8
その他	4
計	117



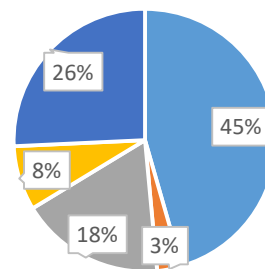
31 加入していない理由は何ですか【複数選択可】

学業に専念したいため	3
健康上の理由	5
経済的事情	5
通学に時間がかかるため	8
他にやりたいことがあるため	14
入りたいサークルが無いため	17
サークル運営に不満があるため	4
その他	4
計	60



32 大学祭「輝豊祭」に参加したことがありますか

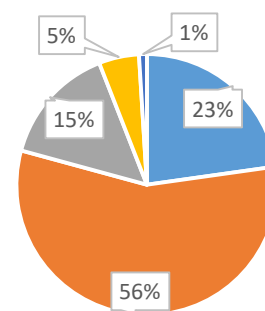
企画・イベント等の一員として参加した	46
役員として参加した	3
企画・イベント等を見たり聞いたりしてまわった	18
参加しなかった	8
在学中に、まだ開催されていない	26
計	101



33 次の項目について、あなたの満足度を選択してください。

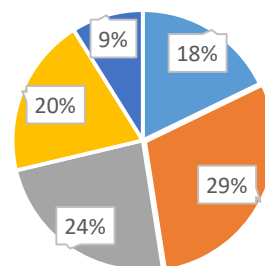
① 大学における生活全般

大いに満足	23
やや満足	57
どちらとも言えない	15
やや不満	5
大いに不満	1
計	101



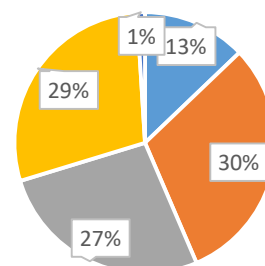
② 体育・ 課外活動施設

大いに満足	18
やや満足	30
どちらとも言えない	24
やや不満	20
大いに不満	9
計	101



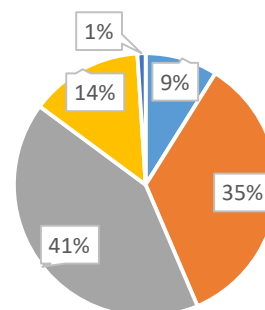
③ 学生食堂などの福利厚生施設

大いに満足	13
やや満足	31
どちらとも言えない	27
やや不満	29
大いに不満	1
計	101



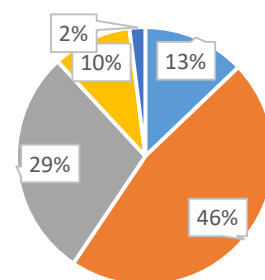
④ 駐輪場、バイク置き場

大いに満足	9
やや満足	35
どちらとも言えない	42
やや不満	14
大いに不満	1
計	101



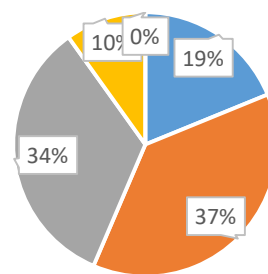
⑤ 教室設備

大いに満足	13
やや満足	47
どちらとも言えない	29
やや不満	10
大いに不満	2
計	101



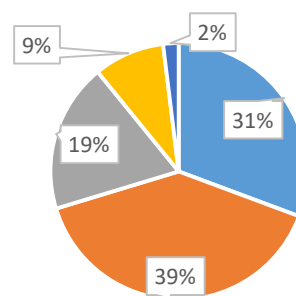
⑥ コンピューター施設

大いに満足	19
やや満足	38
どちらとも言えない	34
やや不満	10
大いに不満	0
計	101



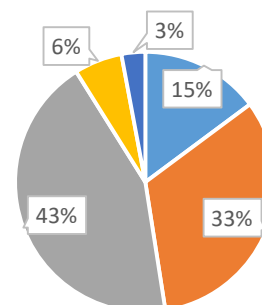
⑦ 事務窓口の対応

大いに満足	31
やや満足	40
どちらとも言えない	19
やや不満	9
大いに不満	2
計	101



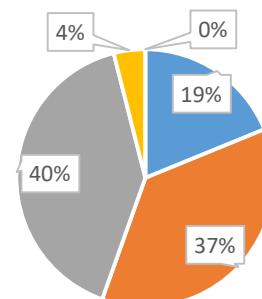
⑧ 進路・就職の支援体制

大いに満足	15
やや満足	33
どちらとも言えない	44
やや不満	6
大いに不満	3
計	101



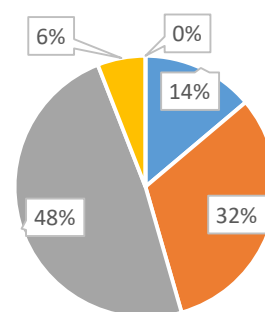
⑨ 保健管理体制

大いに満足	19
やや満足	37
どちらとも言えない	41
やや不満	4
大いに不満	0
計	101



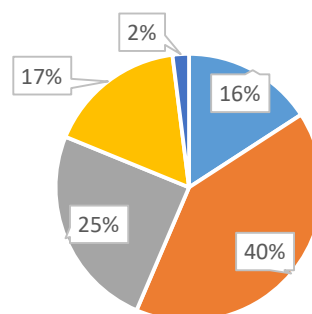
⑩ 学生相談体制

大いに満足	14
やや満足	32
どちらとも言えない	49
やや不満	6
大いに不満	0
計	101



⑪ 掲示板・メール等の学生連絡体制

大いに満足	16
やや満足	41
どちらとも言えない	25
やや不満	17
大いに不満	2
計	101



カテゴリ名：

「G. ボランティア活動について」

調査項目：

- 35 本学入学以降のボランティア活動について
- 36 あなたが参加したボランティア活動は【複数選択可】
- 37 あなたが今後参加してみたいボランティア活動は【複数選択可】
- 38 ボランティア活動を行うことで期待する（した）ことは、何ですか【複数選択可】
- 39 ボランティア活動に参加しない理由は何ですか【複数選択可】

1. 全体の傾向

ボランティア活動について、「参加している、参加したことがある」（34人、34%）と「参加したことはないが、今後参加するつもり」（25人、25%）を合わせて「活動する」が全体の6割程度である。また、参加したボランティア活動は、「学校ボランティア」（14人、28%）、「社会福祉に関するもの」（10人、20%）、「地域社会に関するもの」（8人、16%）が上位3つであった。

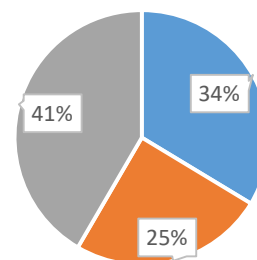
ボランティア活動を行うことで期待することは、「人や社会の役に立つこと」が約2割、「人生（社会）経験が豊富になること」が約3割で、「将来の進路にプラスになること」が3割弱であった。ボランティア活動に参加しない理由は、「時間に余裕がない」が4割で「他にやりたいことがある」が2割、「興味がない」が1割半程度であった。

2. 特筆すべき事項

「参加したボランティア活動」では「学校ボランティア」が最も割合が高い。また、「ボランティア活動を行うことで期待すること」では「人生（社会）経験が豊富になること」と「将来の進路にプラスになること」の割合が高いことから、「ボランティア活動」を自己研鑽の場と考えているだけでなく、教員就職・採用試験に向けた「活動」としている学生も多いのではないかと考えられる。

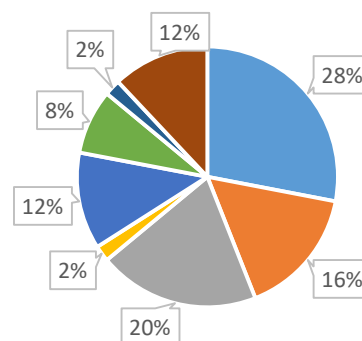
35 本学入学以降のボランティア活動について

参加している、参加したことがある	34
参加したことはないが、今後参加するつもりである	25
参加したことがなく、今のところ参加するつもりはない	42
計	101



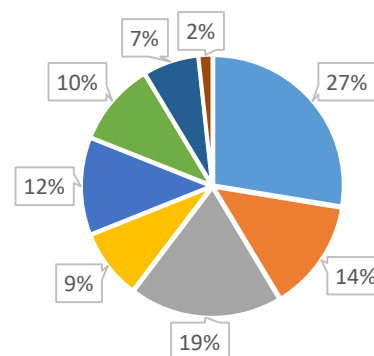
36 あなたが参加したボランティア活動は【複数選択可】

学校ボランティア	14
地域社会に関するもの（まちづくり、交通安全など）	8
社会福祉に関するもの（子育て支援、障がい者支援など）	10
環境保全に関するもの	1
文化・スポーツに関するもの	6
国際交流に関するもの	4
災害時救援に関するもの	1
その他	6
計	50



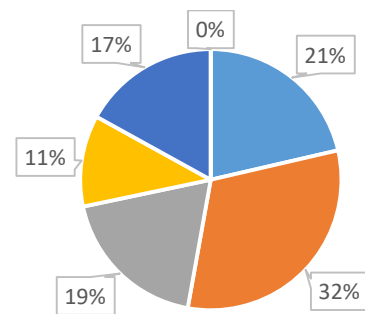
37 あなたが今後参加してみたいボランティア活動は【複数選択可】

学校ボランティア	16
地域社会に関するもの（まちづくり、交通安全など）	8
社会福祉に関するもの（子育て支援、障がい者支援など）	11
環境保全に関するもの	5
文化・スポーツに関するもの	7
国際交流に関するもの	6
災害時救援に関するもの	4
その他	1
計	58



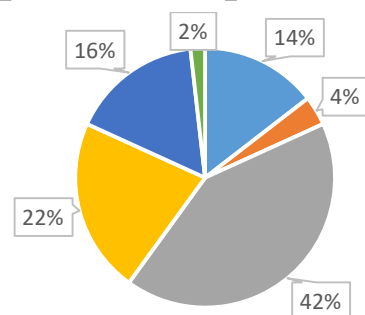
38 ボランティア活動を行うことで期待する(した)ことは、何ですか【複数選択可】

人や社会の役に立つこと	34
人生(社会)経験が豊富になること	50
程度の差はあるが、自分の勉強に直接役にたつこと	30
自分の生活に充実感が増すこと	18
将来の進路にプラスになること	27
その他	0
計	159



39 ボランティア活動に参加しない理由は何ですか【複数選択可】

学業に専念したいため	8
健康上の問題	2
時間に余裕がないため	23
他にやりたいことがあるため	12
興味がないため	9
その他	1
計	55



カテゴリ名：

「H. 図書館の利用について」

調査項目：

- 40 図書館をどのくらい利用しますか
- 41,42 利用する目的は、何ですか
- 43 図書館資料（電子ブック等を含む）、サービス及び施設・設備面に満足していますか？
- 44 必要とする図書館資料がない場合に利用できるサービスがあることを知っていますか。
- 45 図書館について、ご意見等があれば自由に入力してください

1. 全体の傾向

図書館の利用頻度については、前回と同様に「月 1 回以上」（43%）が最も多かった。利用する目的についても、前回と同様に、「個人の学習・研究のため」（35%）が最も多く、次いで「資料（図書・雑誌・新聞等）の閲覧・貸出のため」（28%）であった。また、令和3年度調査以降「パソコンを利用するため」とした回答は減少傾向であったが、今回もその傾向は変わらなかった。

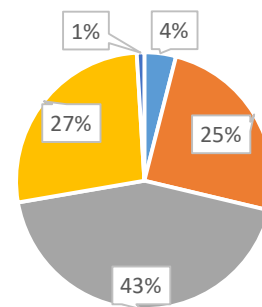
2. 特筆すべき事項

「図書館資料、サービス及び施設・設備面に満足していますか」の質問では、約半数が「満足している」と回答した。しかし、図書館資料に関する満足度は、サービスおよび施設・設備に比べてやや低い傾向が見られた。また、サービスの内容ごとに認知度を問うたところ、リクエスト制度・学生選書イベントや奈良女子大学等からの取り寄せサービスの両方または片方について知っていると回答した学生が79%を占めた。自由記述において、読みやすい小説等に関する要望があったが、これらの資料は予算及び体系的な収集の難しさから、図書館資料の満足度が低くなった可能性がある。図書館は教育・研究支援を目的とした資料収集方針に基づき、資料を整備しているため、娯楽性の高い図書については、積極的に整備することは難しいもののリクエスト制度、学生選書イベントの実施により、可能な範囲で学生のニーズに合った資料の充実に努めたい。

また、いずれのサービスも知らないと回答した学生も21%存在しており、今後も継続的に、サービスの周知・広報に取り組む必要がある。

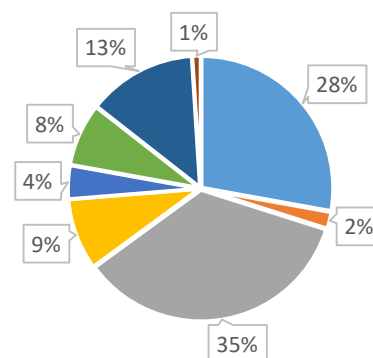
40 図書館をどのくらい利用しますか

毎日利用する	4
週1回以上利用する	25
月1回以上利用する	44
年数回利用する	27
利用したことがない	1
計	101



41,42 利用する目的は、何ですか

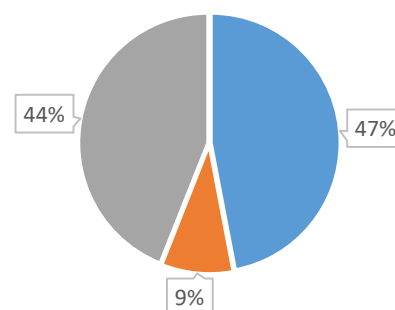
資料（図書・雑誌・新聞等）の閲覧・貸出のため	54
文献複写のため	4
個人の学習・研究のため（予習・復習・試験勉強等）	68
友人同士やゼミでのグループ学習・研究のため	17
パソコンを利用するため	8
気分転換	15
授業等の中の時間調整	26
その他	2
計	194



43 図書館資料（電子ブック等を含む）、サービス及び施設・設備面に満足していますか

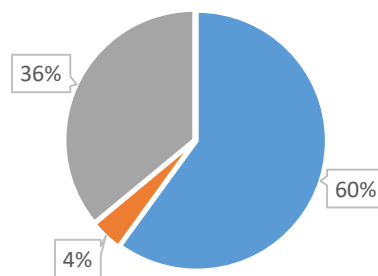
①図書館資料（電子ブック等）

満足している	47
不満がある	9
不満・満足のどちらでもない	44
計	100



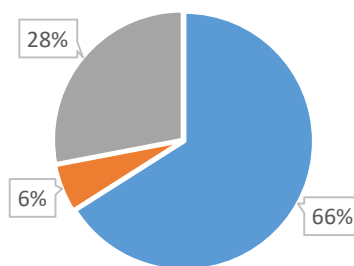
②サービス

満足している	60
不満がある	4
不満・満足のどちらでもない	36
計	100



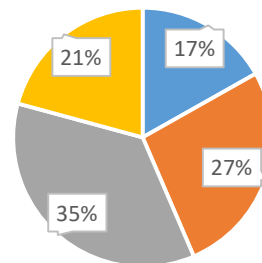
③施設・設備

満足している	66
不満がある	6
不満・満足のどちらでもない	28
計	100



44 必要とする図書館資料がない場合に利用できるサービスがあることを知っていますか。

リクエスト制度または学生選書イベントを知っている	17
奈良女子大学等他大学図書館・奈良県立図書情報館からの取り寄せサービスを知っている	27
2 つとも知っている	36
2 つとも知らない	21
計	101



カテゴリ名：

「I. 情報館の利用について」

調査項目：

46 共同利用 PC に満足していますか

47 利用時間に満足していますか

48 情報館について、ご意見等があれば自由に入力してください

1. 全体の傾向

共同利用 PC、利用時間いずれにおいても、約 4 割の学生が「満足」と回答し、「どちらとも言えない」と回答した学生が半数以上を占めた。

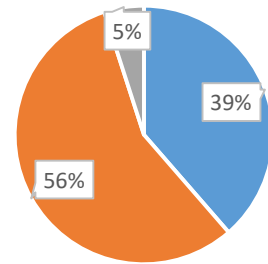
自由記述の多くは、学内無線 LAN 環境の改善を求める意見であった。また、共同利用プリンタ（用紙持ち込みプリンタ）の用紙設定方法が分かりにくいという意見もあった。

2. 特筆すべき事項

特になし。

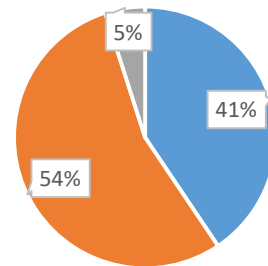
46 共同利用PCに満足していますか

満足している	39
どちらともいえない	57
不満である	5
計	101



47 利用時間に満足していますか

満足している	41
どちらともいえない	55
不満である	5
計	101



カテゴリ名：

「J. 教育資料館について」

調査項目：

49 教育資料館の常設展・企画展を見学したことがありますか

50 学生主催の展示会、発表会、演奏会、セミナー等に、教育資料館を利用できることを知っていますか

1. 全体の傾向

「教育資料館の常設展・企画展」について、欠かさず継続的な広報活動をしているものの、「見学したことがある」は29%、「発表の場として教育資料館を利用できることを知っている」が24%と前回より減少しており、学生自身が発表の場として利用できることも含め、あまり知られていないことが読み取れる。

2. 特筆すべき事項

「知っているが見学などをしたことがない」が15%、「見学したことがない」が56%、「発表の場として教育資料館を利用できることを知らない」が76%を占めていることから、教育資料館自体の存在やどのような展示を行っているか、どうすれば自分たちの成果発表の場として利用できるか、広く広報することが必要であろう。

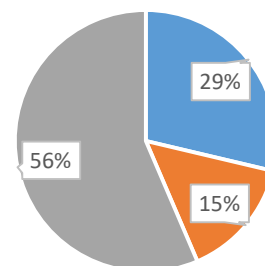
企画展の広報は、現在、教育資料館ホームページ、教職員・学生向け掲示板、その他学内へのポスター掲出により行っており、企画展の募集は、例年4月に教職員と学生に向けて案内を行っている。認知をより広げるために、継続して活動を行っていきたい。

なお、令和6年度の教育資料館の来館者数（学生・教職員・一般の総数）のうち、約79%（1,327人）が企画展（年間7回）への来館者であった。これは、令和5年度の約64%（864人）から大きく増加しており、一般の来館者数も多いことから、外部に向けた企画展の広報活動が成果として表れていると考えられる。

今後は、企画展の主体となる学生への動機付けを一層強化し、教育資料館のさらなる活用促進につなげていく。

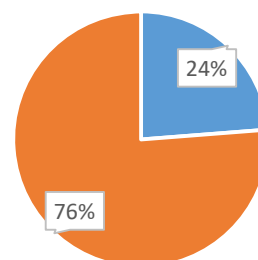
49 教育資料館の常設展・企画展を見学したことがありますか

見学したことがある	29
知っているが見学などをしたことがない	15
見学したことがない	57
計	101



50 学生主催の展示会、発表会、演奏会、セミナー等に、教育資料館を利用できることを知っていますか

知っている	24
知らない	77
計	101



カテゴリ名：

「K. 経済状況について」

調査項目：

- 51 1ヶ月あたりの平均収入額を選択してください。（家庭からの給付、仕送り、小遣い等）
- 52 1ヶ月あたりの平均収入額を選択してください。（奨学金）
- 53 1ヶ月あたりの平均収入額を選択してください。（アルバイト収入）
- 54 1ヶ月あたりの平均支出額の合計を選択してください。（食費、勉学費、娯楽費、通信費、下宿の場合の住居・光熱水費等、すべての合計額）
- 55 自分の経済状況について、どのように感じていますか。
- 56 奨学金、授業料免除（減免）、アルバイトなど経済生活に関する要望・意見を自由に入力してください

1. 全体の傾向

1ヶ月あたりの平均収入額（家庭からの給付、仕送り、小遣い等）において、「なし」の回答が最も多く（32人、31%）、次いで「3万円未満」（20人、20%）であった。1ヶ月あたりの平均収入額（奨学金）において、「なし」の回答が最も多く（61人、60%）、次いで「3～5万円未満」（15人、15%）であった。1ヶ月あたりの平均収入額（アルバイト収入）において、「3～5万円未満」の回答が最も多かったが（22人、22%）、「3万円未満」（20人、20%）、「5～7万円未満」（23人、22%）と回答したものとあまり差はなかった。1ヶ月あたりの平均支出額の合計において、「5～10万円未満」の回答が最も多く（36人、35%）、次いで「1～3万円未満」（13人、13%）であった。自分の経済状況について、どのように感じていますか。という質問においては、「どちらとも言えない」の回答が最も多く（27人、26%）、次いで「やや苦しい」（25人、25%）、「やや余裕がある」（17人、17%）であった。

自由記述において、給付型奨学金の拡充や食堂の価格値下げや、成績優秀者に対する学食を半額とするインセンティブ制度の設置などの要望が挙げられていた。

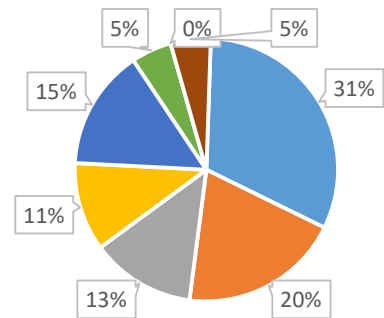
2. 特筆すべき事項

月平均収入額において、3割の学生が家庭からの給付、仕送り、小遣い等の無い学生が、前回調査の38%を下回っているが、約9割以上（88人、93%）の学部学生がアルバイトで収入を得ており前回調査の87%から増加傾向にある。そのうち約5割（42人、48%）が5万円未満であった。自由記述において、アルバイト収入が減少などの記述はないが、「アルバイトで自由時間がほとんどない」、「食堂や購買を値下げして欲しい」、「奨学金を返さなくて良い範囲を増やして欲しい」といった意見が挙げられており、自分の経済状況にお

いて約4割以上（43人、43%）が「やや苦しい」、「苦しい」と回答し、前回調査の38%を微増ではあるが上回っているところを見ると、仕送りが増加しても経済状況が苦しい学部学生は年々増加傾向にあり、アルバイトに頼らざるを得ない学生が増加していると推察される。

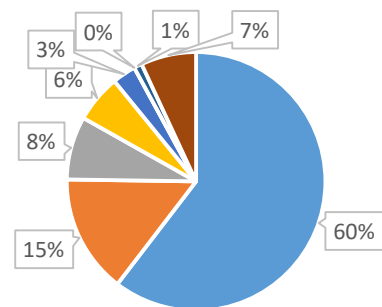
51 1ヶ月あたりの平均収入額を選択してください。(家庭からの給付、仕送り、小遣い等)

なし	32
3万円未満	20
3～5万円未満	13
5～7万円未満	11
7～10万円未満	15
10～20万円未満	5
20万円以上	0
答えたくない	5
計	101



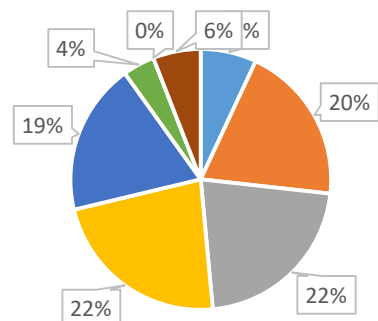
52 1ヶ月あたりの平均収入額を選択してください。(奨学金)

なし	61
3万円未満	15
3～5万円未満	8
5～7万円未満	6
7～10万円未満	3
10～20万円未満	0
20万円以上	1
答えたくない	7
計	101



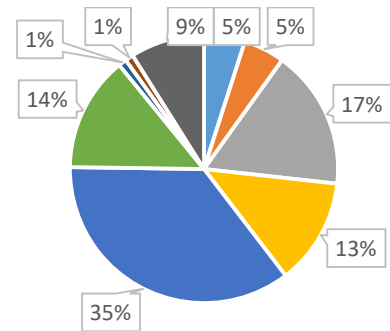
53 1ヶ月あたりの平均収入額を選択してください。(アルバイト収入)

なし	7
3万円未満	20
3～5万円未満	22
5～7万円未満	23
7～10万円未満	19
10～20万円未満	4
20万円以上	0
答えたくない	6
計	101



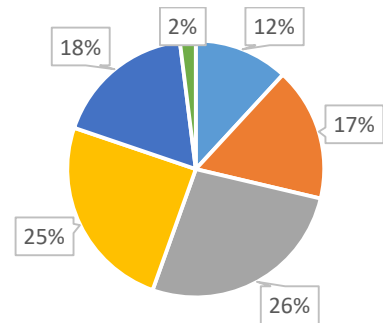
54 1ヶ月あたりの平均支出額の合計を選択してください。(食費、勉学費、娯楽費、通信費、下宿の場合の住居・光熱水費等、すべての合計額)

なし	5
1万円未満	5
1～3万円未満	17
3～5万円未満	13
5～10万円未満	36
10～15万円未満	14
15～20万円未満	1
20万円以上	1
答えたくない	9
計	101



55 自分の経済状況について、どのように感じていますか。

余裕がある	12
やや余裕がある	17
どちらとも言えない	27
やや苦しい	25
苦しい	18
答えたくない	2
計	101

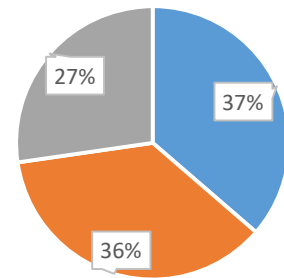


(大 学 院)

令和7年度学生生活実態調査集計結果(大学院)

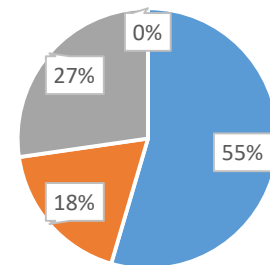
03 あなたの住居

自宅(家族と同居)	4
自宅外(学生寮を除く)	4
学生寮	3
計	11



04 通学に要する時間(片道)

30分未満	6
30分~1時間未満	2
1時間~2時間未満	3
2時間以上	0
計	11



カテゴリ名：

「B. 将来希望する進路について」

調査項目：

05 将来希望する進路について、お答えください

06 大学が実施する就職支援について、意見・要望等を自由に入力してください

1. 全体の傾向

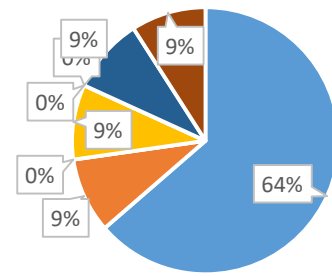
教員就職希望者の割合は64%であった。ただし、回答数が少ないため統計上のぶれが生じている可能性があることも留意しなければならない。

2. 特筆すべき事項

自由記述では、「キャリアサロンの先生方が親身に教採対策に付き合ってくれる」「メール配信での情報提供が手厚い」という意見があった。

05 将来希望する進路について、お答えください

教員（保育士含む）	7
公務員（教員を除く）	1
民間企業	0
民間の教育施設や福祉施設	1
自由業・家業を継ぐ	0
大学院へ進学	0
未定	1
その他	1
計	11



カテゴリ名：

「C. あなたの健康について」

調査項目：

- 07 あなたは、健康だと思いますか
- 08 あなたは、喫煙の経験がありますか
- 09 あなたは、お酒を飲みますか
- 10 普段から健康に心掛けていますか
- 11 カウンセリングの利用方法を知っていますか

1. 全体の傾向

身体面では、健康であると感じている学生が大部分を占め、喫煙者もいなかった。また、6割強の学生が「健康に心掛けています」と回答した一方で、3割強は「特に心掛けていない」と回答した。

次にメンタル面では、何らかの悩みを抱えていると回答した学生が8割近くに上る一方、カウンセリングの利用方法を知らない学生が半数近くに達していた。

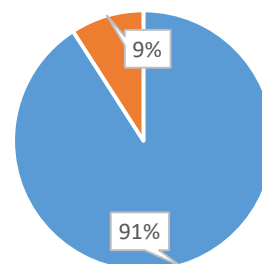
2. 特筆すべき事項

6割強の学生が健康を意識して生活している点は、大学として望ましい傾向である。一方で、3割強を占める健康意識の低い層に対し、どのように働きかけていくかは、保健センターとして今後検討すべき課題である。

また、多くの学生がメンタル面で悩みを抱えることは、若い世代として自然な側面もある。しかし、カウンセリングの利用方法を認識していない学生が少ない現状は、大学および保健センターの支援体制が学生に十分に周知されていないことを示している。今後は、カウンセリングの利用方法を「誰にでも分かる形」で明示し、「相談は特別なことではない」という文化づくりや利用への心理的ハードルを下げる取り組みと併せて、メンタルヘルス支援を推進していく必要がある。

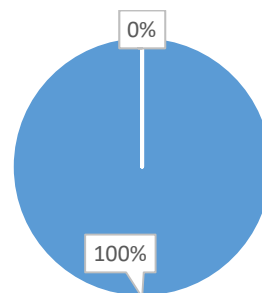
07 あなたは、健康だと思いますか

健康だと思う	10
不健康だと思う	1
計	11



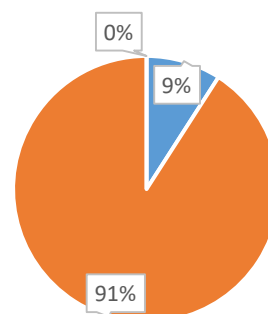
08 あなたは、喫煙の経験がありますか

喫煙の経験はない	11
喫煙の経験はあるが、現在は喫煙していない	0
現在、喫煙している	0
計	11



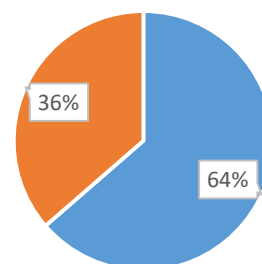
09 あなたは、お酒を飲みますか

全く飲まない	1
時々飲む	10
ほぼ毎日飲む	0
計	11



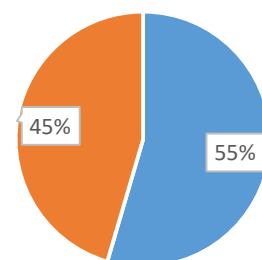
10 普段から健康に心掛けていますか

健康に心掛けている	7
健康に心掛けていない	4
計	11



11 カウンセリングの利用方法を知っていますか

はい	6
いいえ	5
計	11



カテゴリ名：

「D. 現在の悩みについて」

調査項目：

- 12 現在、悩んでいる問題がありますか
- 13 悩んでいる問題は何ですか【複数選択可】
- 14 悩みの相談相手は【複数選択可】
- 15 本学が実施しているオフィスアワー制度について

1. 全体の傾向

「現在、悩んでいる問題」について、回答した大学院生（11名）の約3割弱が「ある」としており、「自分の性格・能力」（3名、34%）、「自分の健康について」（1名）、「友達に關すること」（1名）、「将来、進路（就職・進学）について」（1名）、「学業について」（1名）「恋愛について」（1名）、「ハラスメントについて」（1名）であった。「悩みの相談相手」は、「友人・先輩・後輩」（3名、50%）が半数を占め、「家族・親戚」（1名）、「本学の教員」（1名）、「いない」（1名）という回答がみられた。

「オフィスアワー制度」については、回答の7割以上（8名）が「制度の内容は知っているが、利用したことはない」であった。「制度を知らない」（1名）、「利用したことがある」（1名）という回答であった。

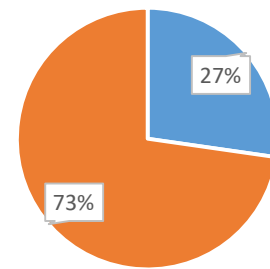
2. 特筆すべき事項

数が少なく傾向を見極めにくいところではあるが、上位の回答については学部とほぼ共通している。

「悩みの相談相手」について、「いない」という回答がみられること、「オフィスアワー制度」について、「制度の内容は知っているが、利用したことはない」という回答が大半を占めていることなどは、学部と同様、特筆すべき点として挙げられよう。

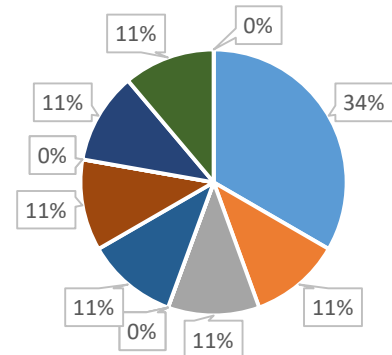
12 現在、悩んでいる問題がありますか

ある	3
ない	8
計	11



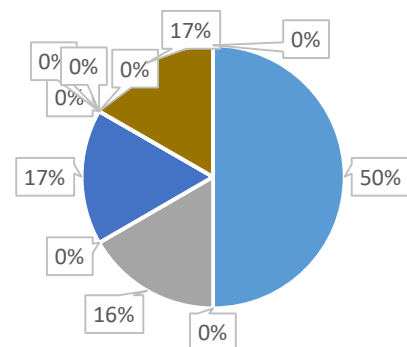
13 悩んでいる問題は何ですか【複数選択可】

自分の性格・能力について	3
自分の健康について	1
友達に関すること	1
本学の教職員に関すること	0
家族について	0
経済的なことについて	0
将来、進路（就職・進学）について	1
学業について	1
課外活動（クラブ活動・ボランティア活動等）について	0
アルバイトについて	0
恋愛について	1
ハラスメントについて	1
その他	0
計	9



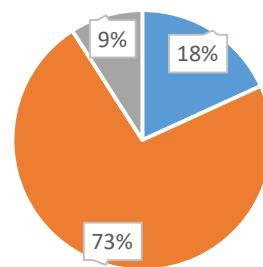
14 悩みの相談相手は【複数選択可】

友人・先輩・後輩	3
恋人・配偶者	0
家族・親戚	1
出身学校の恩師	0
本学の教員	1
本学の事務職員	0
本学の学生相談員・カウンセラー	0
本学のハラスメント相談員	0
学外のカウンセラー	0
いない	1
その他	0
計	6



15 本学が実施しているオフィスアワー制度について

利用したことがある	2
制度の内容は知っているが、利用したことはない	8
制度を知らない	1
計	11



カテゴリ名：

「E. ハラスメント、人権問題等について」

調査項目：

- 16 奈良教育大学ダイバーシティ・インクルージョン推進宣言について
- 17 本学が設置するハラスメント相談窓口（ハラスメント相談員）について
- 18 現在又は過去に学内でハラスメントを受けたことはありますか。
- 19 受けたことがあるハラスメントを選択してください【複数選択可】
- 20 ハラスメントを受けた相手は誰ですか【複数選択可】
- 21 ハラスメントを受けた時、そのことを誰かに相談しましたか【複数選択可】
- 22 ハラスメントに対する対応策を講じましたか【複数選択可】
- 23 ハラスメントを受けたことにより、あなた自身にどのような不利益や影響がありましたか【複数選択可】
- 24 現在又は過去に学内でハラスメントの相談を受けた、又は見聞きしたことがありますか。ある場合は、相談を受けた又は見聞きしたハラスメントを選択してください【複数選択可】
- 25 本学において、個人の人権に関わって、「差別的な取り扱いである」、「改善すべきである」といった課題には何があると思いますか【複数選択可】
- 26 上記回答について、具体的な内容を入力してください
- 27 ハラスメント、人権問題等に関して、大学への意見・要望等を自由に入力してください

1. 全体の傾向

奈良教育大学ダイバーシティ・インクルージョン推進宣言を聞いたことがない大学院生は18%（前回38%）、内容を理解している大学院生は36%（前回25%）であり、周知に一定の効果が見られた。

ハラスメント相談窓口を知らない大学院生が36%（前回44%）おり、前回よりは改善しているが、引き続き周知が必要である。「ハラスメントを受けたことがない」と回答した大学院生は73%（前回94%）と前回よりも悪化した。一方で「学内で何らかのハラスメントの相談を受けたり、見聞きしたりしたことがある」と回答した大学院生は0%（前回36%）であった。ハラスメントを受けた相手は「教員」が100%（前回0%（ただし、回答数1件のみ））であった。ハラスメントへの対応策として「拒否や抗議をした」と比較的積極的に対処した者は0%（前回0%（ただし、回答数1件のみ））、「冗談ですませようとした」「考えないようにした」「相手を避けようとした」といった対処をした者は86%（前回0%（ただし、回答数1件のみ））であった。「誰かに相談した」と回答した場合の相談相

手は「教員」(50%)、「友人・先輩」(25%)という順であり、「本学のハラスメント相談員」は0%であった。

差別的・改善すべきと感じている事柄について、「性差に関わる問題」、「インターネット上での問題」、「プライバシーにかかわる問題」、「バリアフリーなど、大学の設備に関わる問題」、「教員・事務職員の発言・態度に関わる問題」が選択された。

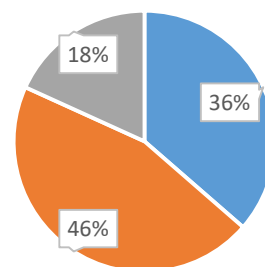
なお、令和5年度に実施された前回調査と比べて、回答数が3割程度少なくなっているため、単純に前回と比較しづらい状況であること、また、回答数が全体で11とかなり少ないため、十分に分析することが難しいことを申し添える。

2. 特筆すべき事項

回答数が少なく分析が難しい状況であったが、「ハラスメントを受けたことがない」と回答した大学院生が減少したこと、ハラスメントを受けた相手として「教員」と回答した大学院生が増加したこと、相談窓口を知らない大学院生が依然3割強近くいることについて留意する必要がある。

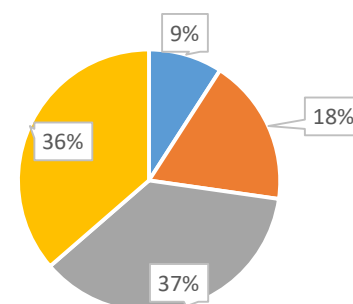
16 奈良教育大学ダイバーシティ・インクルージョン宣言について

知っているし、内容を理解している	4
聞いたことはあるが、内容は理解していない	5
聞いたことがない	2
計	11



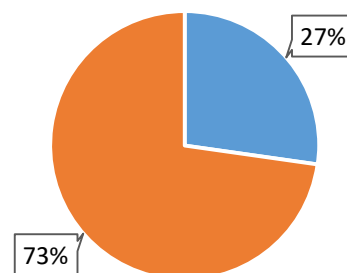
17 本学が設置するハラスメント相談窓口(ハラスメント相談員)について

知っているし、利用したこともある	1
知っているが、利用しづらい	2
知っているが、利用する必要がある	4
知らない	4
計	11



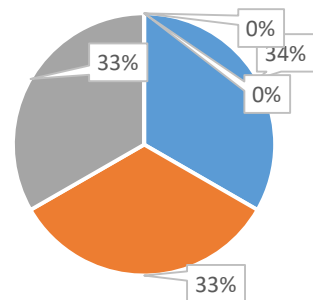
18 現在又は過去にハラスメントを受けたことはありますか。

ある	3
ない	8
計	11



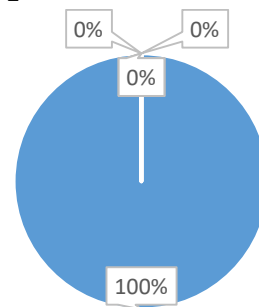
19 受けたことがあるハラスメントを選択してください【複数選択可】

セクシャル・ハラスメント（不快に感じる性的な言動等）	1
パワー・ハラスメント（上下関係を利用した嫌がらせ等）	1
アカデミック・ハラスメント（教育・研究指導における嫌がらせ）	1
アルコール・ハラスメント（飲酒の強要）	0
その他（SNSを含む）執拗ないやがらせ	0
計	3



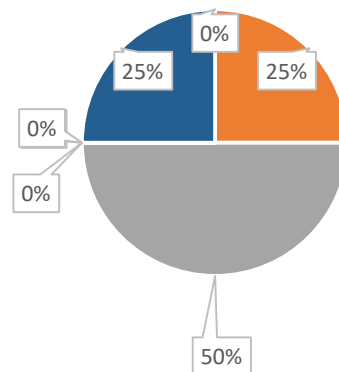
20 ハラスメントを受けた相手は誰ですか【複数選択可】

教員	3
事務職員	0
所属する研究室の学生	0
所属するサークルの学生	0
所属する研究室・サークル以外の学生	0
その他	0
計	3



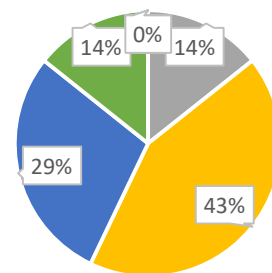
21 ハラスメントを受けた時、そのことを誰かに相談しましたか【複数選択可】

家族	0
友人・先輩	1
教員	2
事務職員	0
本学のハラスメント相談員	0
誰にも相談していない	0
その他	1
計	4



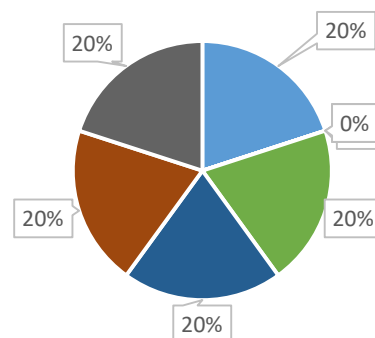
22 ハラスメント に対する対応策を講じましたか【 複数選択可】

拒否や抗議をした	0
無視した	0
冗談ですませようとした	1
考えないようにした	3
相手を避けようとした	2
特に何もしなかった	1
その他	0
計	7



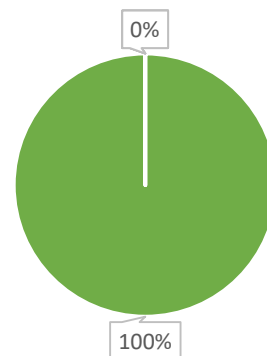
23 ハラスメント を受けたことにより、あなた自身にどのような不利益や影響がありましたか【 複数選択可】

進路の決定や成績の判定で不利な扱いを受けた	1
サークルや研究室で仲間はずれ等をされ人間関係が悪くなった	0
相手との接触を避けたことにより、活動・行動範囲が制限された	0
大学へ行くのが嫌になった	0
勉強（研究）する気がなくなった	0
憂鬱感、不安感など精神的に不安定になった	1
不眠や食欲不振など体調を崩した	1
特に影響はなかった	1
その他	1
計	5



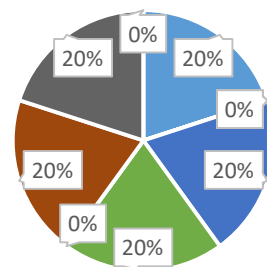
24 現在又は過去に学内でハラスメントの相談を受けた、又は見聞きしたことがありますか。ある場合は、相談を受けた又は見聞きしたハラスメントを選択してください【複数選択可】

セクシャル・ハラスメント	0
パワー・ハラスメント	0
アカデミック・ハラスメント	0
アルコール・ハラスメント	0
その他（SNSを含む）執拗ないやがらせ	0
相談を受けたことがない又は見聞きしたことがない	11
計	11



25 本学において、個人の人権に関わって、「差別的な取り扱いである」、「改善すべきである」といった課題には何があると思いますか【複数選択可】

性差に関わる問題	1
留学生に関わる問題	0
障害者に関わる問題	0
部落差別に関わる問題	0
インターネット上での問題	1
プライバシーに関わる問題	1
ハラスメントに関わる問題	0
バリアフリーなど、大学の設備に関わる問題	1
教員・事務職員の発言・態度に関わる問題	1
学生同士の発言・態度に関わる問題	0
計	5



カテゴリ名：

「F. 課外活動（サークル活動等）と学内における生活の状況について」

調査項目：

- 28 現在、学内外のサークル等へ加入していますか
- 29 加入しているサークル等を選択してください。【複数選択可】
- 30 サークルに入った目的は何ですか【複数選択可】
- 31 加入していない理由は何ですか【複数選択可】
- 32 大学祭「輝薨祭」に参加したことがありますか
- 33 次の項目について、あなたの満足度を選択してください。
- 34 学生生活についての意見・要望等を自由に入力してください。

1. 全体の傾向

大学院生は、サークル等に加入している人がほとんどおらず、理由としては、約半数の学生が「学業に専念したいから」と回答しており、また、大学祭への参加も少数であった。

満足度の調査では、「大学における生活全般」や「事務窓口の対応」、「進路・就職の支援体制」の設問で、「大いに満足」・「やや満足」が半数以上を占め学部生と同様であったが、施設に関しても教室設備、コンピューター施設の満足度も高い傾向にあったことが学部生と異なる点であった。

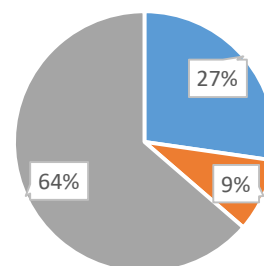
2. 特筆すべき事項

大学院生がサークル等の課外活動に参加することは、学部生にとっても身近なところで指導者を確保することができ、大きなメリットがあると考えられるため、大学院生でも参加しやすい環境作りや支援ができれば良いと考える。

満足度に関しては、全体的に高い傾向にあるが、学生食堂などの福利厚生施設への満足度が低い傾向がみられた。自由記述では、食堂・購買の営業時間の充実してほしいとの要望のほか、体育館や舞踊場の空調設備の要望など施設面のものも見受けられた。

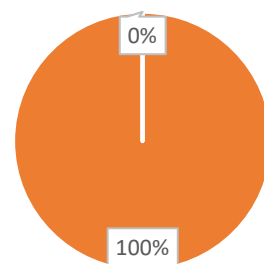
28 現在、学内外のサークル等へ加入していますか

加入している	3
以前は加入していたが、現在は加入していない	1
全く加入したことがない	7
計	11



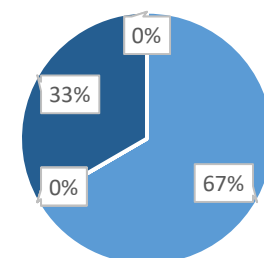
29 加入しているサークル等を選択してください。【複数選択可】

文化系サークル	0
体育系サークル	3
その他のサークル・ボランティアグループ	0
計	3



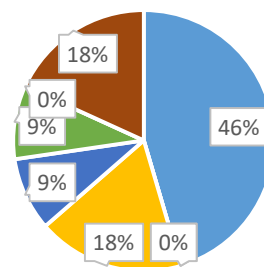
30 サークルに入った目的は何ですか【複数選択可】

高校からやっているから	2
団体活動がしたかったから	0
友達が欲しかったから	0
身体を鍛えたいと思ったから	0
知識・技術を身に付けたかったから	0
就職に役立つと思ったから	0
余暇利用のため	1
先輩に勧誘されたから	0
その他	0
計	3



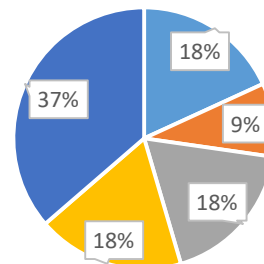
31 加入していない理由は何ですか【複数選択可】

学業に専念したいため	5
健康上の理由	0
経済的事情	0
通学に時間がかかるため	2
他にやりたいことがあるため	1
入りたいサークルが無いため	1
サークル運営に不満があるため	0
その他	2
計	11



32 大学祭「輝豊祭」に参加したことがありますか

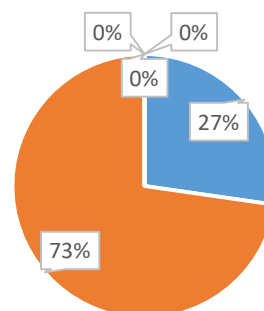
企画・イベント等の一員として参加した	2
役員として参加した	1
企画・イベント等を見たり聞いたりしてまわった	2
参加しなかった	2
在学中に、まだ開催されていない	4
計	11



33 次の項目について、あなたの満足度を選択してください。

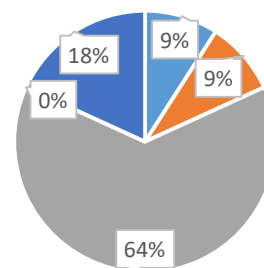
① 大学における生活全般

大いに満足	3
やや満足	8
どちらとも言えない	0
やや不満	0
大いに不満	0
計	11



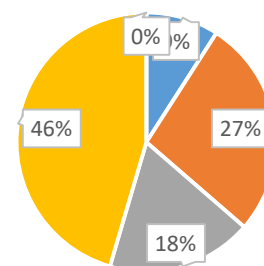
② 体育・ 課外活動施設

大いに満足	1
やや満足	1
どちらとも言えない	7
やや不満	0
大いに不満	2
計	11



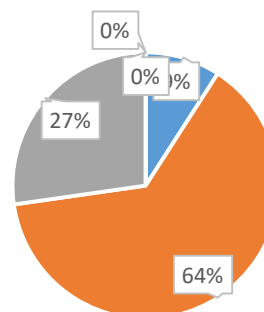
③ 学生食堂などの福利厚生施設

大いに満足	1
やや満足	3
どちらとも言えない	2
やや不満	5
大いに不満	0
計	11



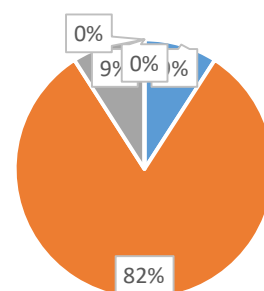
④ 駐輪場、バイク置き場

大いに満足	1
やや満足	7
どちらとも言えない	3
やや不満	0
大いに不満	0
計	11



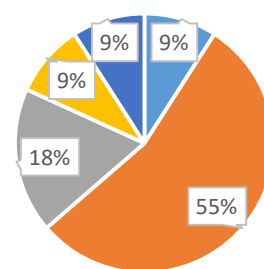
⑤ 教室設備

大いに満足	1
やや満足	9
どちらとも言えない	1
やや不満	0
大いに不満	0
計	11



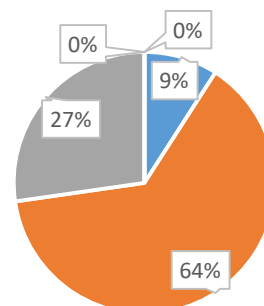
⑥ コンピューター施設

大いに満足	1
やや満足	6
どちらとも言えない	2
やや不満	1
大いに不満	1
計	11



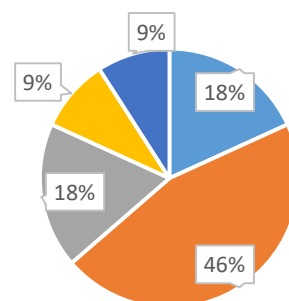
⑦ 事務窓口の対応

大いに満足	1
やや満足	7
どちらとも言えない	3
やや不満	0
大いに不満	0
計	11



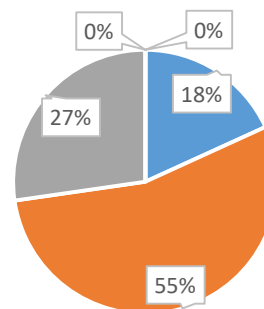
⑧ 進路・就職の支援体制

大いに満足	2
やや満足	5
どちらとも言えない	2
やや不満	1
大いに不満	1
計	11



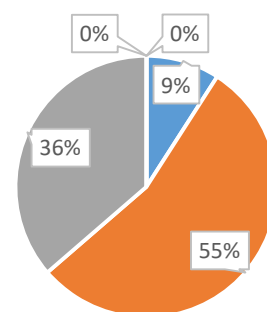
⑨ 保健管理体制

大いに満足	2
やや満足	6
どちらとも言えない	3
やや不満	0
大いに不満	0
計	11



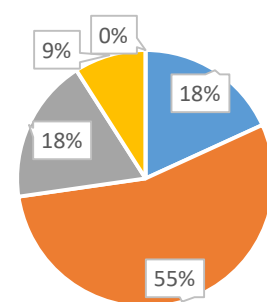
⑩ 学生相談体制

大いに満足	1
やや満足	6
どちらとも言えない	4
やや不満	0
大いに不満	0
計	11



⑪ 掲示板・メール等の学生連絡体制

大いに満足	2
やや満足	6
どちらとも言えない	2
やや不満	1
大いに不満	0
計	11



カテゴリ名：

「G. ボランティア活動について」

調査項目：

- 35 本学入学以降のボランティア活動について
- 36 あなたが参加したボランティア活動は【複数選択可】
- 37 あなたが今後参加してみたいボランティア活動は【複数選択可】
- 38 ボランティア活動を行うことで期待する（した）ことは、何ですか【複数選択可】
- 39 ボランティア活動に参加しない理由は何ですか【複数選択可】

1. 全体の傾向

ボランティア活動について、「参加している」（1人、19%）、「参加するつもりがない」（10人、91%）であった。参加したボランティア活動は回答なしであった。参加してみたいボランティア活動は、回答者なしだった。

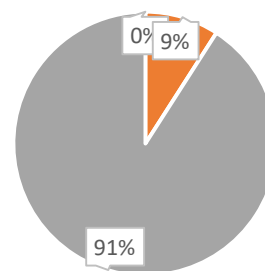
ボランティア活動を行うことで期待することは、「人や社会の役に立つこと」と「人生（社会）経験が豊富になること」、「程度の差はあるが、自分の勉強に直接役にたつこと」、「自分の生活に充実感が増すこと」、「将来の進路にプラスになること」それぞれ2割であった。ボランティア活動に参加しない理由は、「時間に余裕がないため」が40%と高く、「他にやりたいことがある」が27%、「学業に専念したいため」が20%と「興味がない」が1割弱であった。

2. 特筆すべき事項

ボランティア活動について、「参加するつもりがない」が9割を超えており、院生はほとんど活動に参加しないことが明確になった。参加しない理由は「時間に余裕がないため」、「学業に専念したいため」、「他にやりたいことがあるため」の回答が多いことは前回の調査と同様であった。

35 本学入学以降のボランティア活動について

参加している、参加したことがある	0
参加したことはないが、今後参加するつもりである	1
参加したことがなく、今のところ参加するつもりはない	10
計	11

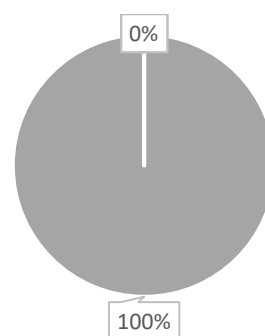


36 あなたが参加したボランティア活動は【複数選択可】

学校ボランティア	0
地域社会に関するもの（まちづくり、交通安全など）	0
社会福祉に関するもの（子育て支援、障がい者支援など）	0
環境保全に関するもの	0
文化・スポーツに関するもの	0
国際交流に関するもの	0
災害時救援に関するもの	0
その他	0
計	0

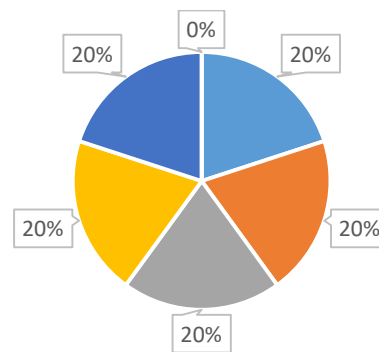
37 あなたが今後参加してみたいボランティア活動は【複数選択可】

学校ボランティア	0
地域社会に関するもの（まちづくり、交通安全など）	0
社会福祉に関するもの（子育て支援、障がい者支援など）	1
環境保全に関するもの	0
文化・スポーツに関するもの	0
国際交流に関するもの	0
災害時救援に関するもの	0
その他	0
計	1



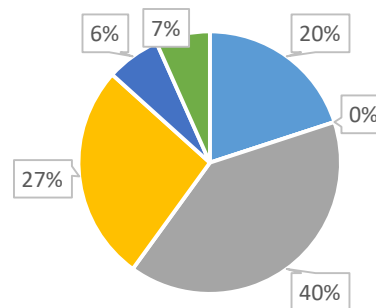
38 ボランティア活動を行うことで期待する(した)ことは、何ですか【複数選択可】

人や社会の役に立つこと	1
人生(社会)経験が豊富になること	1
程度の差はあるが、自分の勉強に直接役にたつこと	1
自分の生活に充実感が増すこと	1
将来の進路にプラスになること	1
その他	0
計	5



39 ボランティア活動に参加しない理由は何ですか【複数選択可】

学業に専念したいため	3
健康上の問題	0
時間に余裕がないため	6
他にやりたいことがあるため	4
興味がないため	1
その他	1
計	15



カテゴリ名：

「H. 図書館の利用について」

調査項目：

- 40 図書館をどのくらい利用しますか
- 41,42 利用する目的は、何ですか
- 43 図書館資料（電子ブック等を含む）、サービス及び施設・設備面に満足していますか？
- 44 必要とする図書館資料がない場合に利用できるサービスがあることを知っていますか。
- 45 図書館について、ご意見等があれば自由に入力してください

1. 全体の傾向

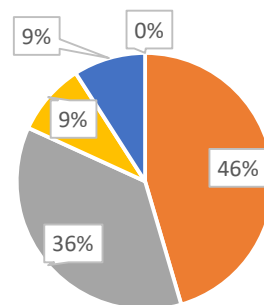
図書館利用頻度については「週1回以上」と「月1回以上」の利用者がほぼ同程度であった。前回調査では「毎日利用する」という回答が見られたが、今回は該当者がなく、「利用したことがない」との回答もあった。利用目的については「個人の学習・研究のため」（45%）、「閲覧・貸出のため」（40%）、「気分転換」（31%）、「その他」（5%）の順になっている。「パソコンを利用するため」とした回答はなく、学部と同様に図書館内のパソコンの利用は減少していると言える。

2. 特筆すべき事項

図書館資料、サービス及び施設・設備には半数以上の学生が「満足している」としている。必要とする図書館資料がない場合に利用できるサービスがあることについて、約半数の大学院生が認知しており、図書館資料について「不満」があるとした学生はいなかった。リクエスト制度や学生選書イベントの実施、奈良女子大学等他大学図書館・奈良県立図書館からの取り寄せサービスが認知されれば、資料について満足度はさらに上がるのかもしれない。

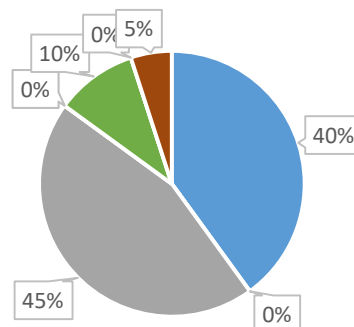
40 図書館をどのくらい利用しますか

毎日利用する	0
週1回以上利用する	5
月1回以上利用する	4
年数回利用する	1
利用したことがない	1
計	11



41,42 利用する目的は、何ですか

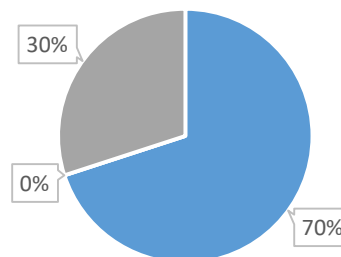
資料（図書・雑誌・新聞等）の閲覧・貸出のため	8
文献複写のため	0
個人の学習・研究のため（予習・復習・試験勉強等）	9
友人同士やゼミでのグループ学習・研究のため	0
パソコンを利用するため	0
気分転換	2
授業等の間の時間調整	0
その他	1
計	20



43 図書館資料(電子ブック等を含む)、サービス及び施設・設備面に満足していますか

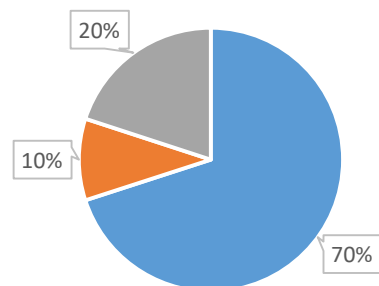
①図書館資料(電子ブック等)

満足している	7
不満がある	0
不満・満足のどちらでもない	3
計	10



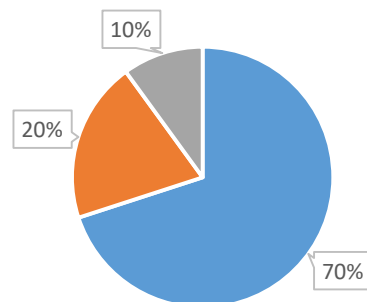
②サービス

満足している	7
不満がある	1
不満・満足のどちらでもない	2
計	10



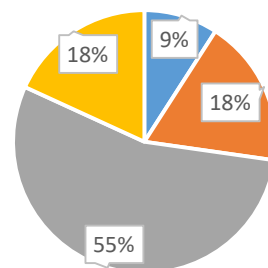
施設・設備

満足している	7
不満がある	2
不満・満足のどちらでもない	1
計	10



44 必要とする図書館資料がない場合に利用できるサービスがあることを知っていますか。

リクエスト制度または学生選書イベントを知っている	1
奈良女子大学等他大学図書館・奈良県立図書情報館からの取り寄せサービスを知っている	2
2 つとも知っている	6
2 つとも知らない	2
計	11



カテゴリ名：

「I. 情報館の利用について」

調査項目：

46 共同利用 PC に満足していますか

47 利用時間に満足していますか

48 情報館について、ご意見等があれば自由に入力してください

1. 全体の傾向

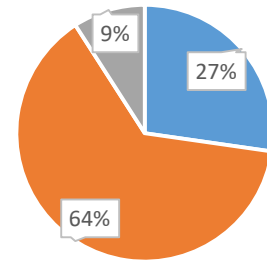
共同利用 PC、利用時間いずれにおいても、約 3 割の学生が「満足」と回答し、「どちらとも言えない」と回答した学生が約 6 割以上を占めた。

2. 特筆すべき事項

特になし。

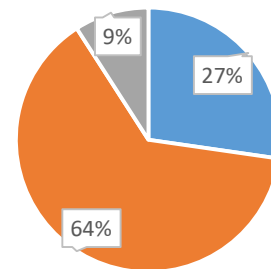
46 共同利用PCに満足していますか

満足している	3
どちらともいえない	7
不満である	1
計	11



47 利用時間に満足していますか

満足している	3
どちらともいえない	7
不満である	1
計	11



カテゴリ名：

「J. 教育資料館について」

調査項目：

49 教育資料館の常設展・企画展を見学したことがありますか

50 学生主催の展示会、発表会、演奏会、セミナー等に、教育資料館を利用できることを知っていますか

1. 全体の傾向

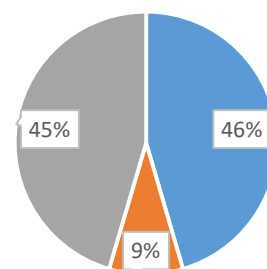
「教育資料館の常設展・企画展」について、【学部】と同様に継続的に広報活動を行っているものの「見学したことがある」は46%、「発表の場として教育資料館を利用できていることを知っている」が55%と前回より減少しており学部生と同様に広報等を通じて、一層の活用を図りたい。

2. 特筆すべき事項

特になし。

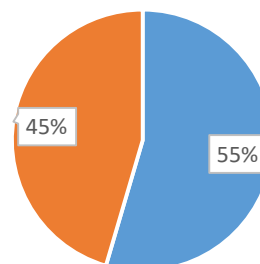
49 教育資料館の常設展・企画展を見学したことがありますか

見学したことがある	5
知っているが見学などをしたことがない	1
見学したことがない	5
計	11



50 学生主催の展示会、発表会、演奏会、セミナー等に、教育資料館を利用できることを知っていますか

知っている	6
知らない	5
計	11



カテゴリ名：

「K. 経済状況について」

調査項目：

- 51 1ヶ月あたりの平均収入額を選択してください。（家庭からの給付、仕送り、小遣い等）
- 52 1ヶ月あたりの平均収入額を選択してください。（奨学金）
- 53 1ヶ月あたりの平均収入額を選択してください。（アルバイト収入）
- 54 1ヶ月あたりの平均支出額の合計を選択してください。（食費、勉学費、娯楽費、通信費、下宿の場合の住居・光熱水費等、すべての合計額）
- 55 自分の経済状況について、どのように感じていますか。
- 56 奨学金、授業料免除（減免）、アルバイトなど経済生活に関する要望・意見を自由に記入してください

1. 全体の傾向

1ヶ月あたりの平均収入額（家庭からの給付、仕送り、小遣い等）において、「なし」の回答が最も多く（4名、37%）、次いで「7～10万円未満」（2名、18%）であった。1ヶ月あたりの平均収入額（奨学金）において、「なし」の回答が最も多く（7名、64%）、次いで「7～10万円未満」（3名、27%）であった。1ヶ月あたりの平均収入額（アルバイト収入）において、「3～5万円」の回答が最も多く（3名、28%）、次いで「3万円未満」、「7～10万円未満」、「なし」がそれぞれ（2名、18%）であった。1ヶ月あたりの平均支出額の合計において、「10～15万円未満」の回答が最も多く（4名、37%）、次いで「3～5万円未満」（3名、27%）、「5～10万円未満」（2名、18%）であった。自分の経済状況について、どのように感じていますか。という質問においては、「どちらとも言えない」（3名、27%）、「やや余裕がある」（3名、27%）の回答が最も多く、次いで「やや苦しい」（2名、18%）、「苦しい」（2名、18%）であった。自由記述において、は、「修士課程においても給付型奨学金を設けてほしい」との要望が挙げられていた。

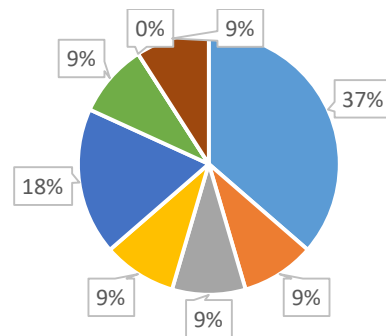
2. 特筆すべき事項

大学院生については、各調査項目の回答者が少ないため、数値からの分析は難しいところであるが、学部学生と異なり、自分の経済状況において、「やや余裕がある」（27%）、「どちらとも言えない」（27%）と回答していることから、前回の調査と比較し、アルバイト収入と仕送りが増加し、前回に比べ経済状況が改善されている学生もいる反面、「苦しい」「やや苦しい」が約4割（36%）を占め前年度とほぼ同値であることから、経済状況が苦しい大学院生は少なくないと推察される。

自由記述においては、物価高対策における生協の 2500 円の支援はとても助かりました」という大学の支援に対する感謝の意が述べられているほか、「修士課程においても給付型奨学金を設けてほしい」といった記述が見られた。

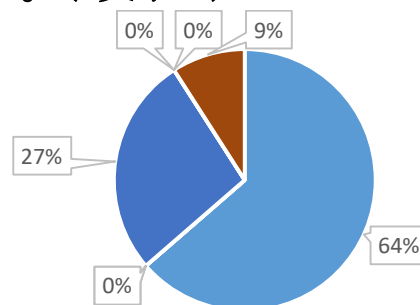
51 1ヶ月あたりの平均収入額を選択してください。(家庭からの給付、仕送り、小遣い等)

なし	4
3万円未満	1
3～5万円未満	1
5～7万円未満	1
7～10万円未満	2
10～20万円未満	1
20万円以上	0
答えたくない	1
計	11



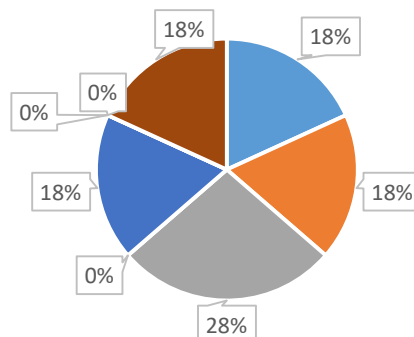
52 1ヶ月あたりの平均収入額を選択してください。(奨学金)

なし	7
3万円未満	0
3～5万円未満	0
5～7万円未満	0
7～10万円未満	3
10～20万円未満	0
20万円以上	0
答えたくない	1
計	11



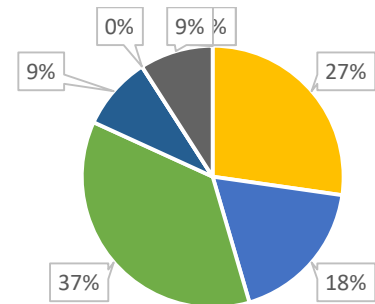
53 1ヶ月あたりの平均収入額を選択してください。(アルバイト収入)

なし	2
3万円未満	2
3～5万円未満	3
5～7万円未満	0
7～10万円未満	2
10～20万円未満	0
20万円以上	0
答えたくない	2
計	11



54 1ヶ月あたりの平均支出額の合計を選択してください。(食費、勉強費、娯楽費、通信費、下宿の場合の住居・光熱水費等、すべての合計額)

なし	0
1万円未満	0
1～3万円未満	0
3～5万円未満	3
5～10万円未満	2
10～15万円未満	4
15～20万円未満	1
20万円以上	0
答えたくない	1
計	11



55 自分の経済状況について、どのように感じていますか。

余裕がある	1
やや余裕がある	3
どちらとも言えない	3
やや苦しい	2
苦しい	2
答えたくない	0
計	11

